

日曜日の午前、所用があり、事務所向かう途中で見つけた光景である。

パレードである。いくつものグループに分かれ、町を練り歩いている。各グループ思い思いに趣向をこらした衣装に身を包んだダンスがパレードの中心である。共に練り歩くパーカッショングループのリズムに合わせてのダンス・パフォーマンスはグループごとに多種多様。そして、どれも、見とれるほどに実にうまい。

日ごろの練習の賜物でもあろう。しかしながら、ここフィリピンにはエンタテナーとしても海外に職を求めていると下地もあり、これを支える力とは無関係ではないように思われる。加え、スペイン・アメリカの植民地であったこともあり、乗りのよさは半端ではない。

さて、これは何のパレードなのか。バランガイが主催する年に一度のお祭り(フェスタ)だったのだ。バランガイとはフィリピン地方自治の末端組織である。バランガイ役場兼公民館、これに隣接するカトリック教会(チャペル)が一体となって住民コミュニティの根幹をなす。そして、その土地には、そこにまつわるキリスト教の聖人がパトロンと称され崇められる。その土地のパトロンに因むフェスタが毎年一回、フィリピン全土の土地・土地で開催される。理解も説明も難しいが、日本でいえば各地の神社のお祭りであり、人間関係はお寺と檀家の関係に近いのか。ここは、下町ではあるが、マカティ(マニラ首都圏)市内であり、決して田舎ではない。なのに、こうしたコミュニティがしっかり存在し、そのなかで、住民が寄り添って生活している様子は、もう日本では見られないであろう。

この日、町のいたる通りに、白と黄色のリボンが飾りつけられ、お祭りムード一色である。

画面の一団はサンバのリズムに乗せて軽やかにまた激しく身を動かす。

そこにカメラを向けると、さらに張り切り気合が入る。そして、この子は、うっとうしい、とばかりに仮面を外してのパフォーマンスを披露してくれた。

私もすっかりお祭り気分。フィリピンの人々と一緒にの幸せな一日となった。

